

磐梯山ジオパーク通信 Vol.8

■ 磐梯山ジオパーク通信Vol.8

3月に入りどんどん春の気配が感じられるようになりました。先月閉幕したオリンピックでは北塩原村出身の西沢選手が出場し、華麗な滑りを見せてくださいました。競技を見てスキーを始めたいと思った時に、雪のある当地域はウィンタースポーツをすぐに始められる、とても良い地域だなとしみじみ感じました。これから開催されるパラリンピックでは猪苗代町出身の鈴木選手が出場します。春の気配を感じつつも、まだまだ冬の激闘が続きます。

さて、今年度も最後の月となりました。年度末そして次年度にむけた準備など、こちらもまた激闘になるのではと思いますが、体調などくずされませんようお身体大事にお過ごしください。

■ 磐梯山ジオパーク再認定審査結果

1月30日に日本ジオパーク委員会より無事に『再認定』をいただくことができました。

この結果はひとえに皆様のお力添えの賜物です。これからも、地域資源の保全や教育活動はもちろん、地域振興につきましても体制を整えていければと思います。

引き続き、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

以下、日本ジオパーク委員会より発表されている内容を抜粋

磐梯山

構成自治体間の定期的な情報共有や、各種団体・学校等と協力関係を構築した成果が、学校や裏磐梯ビジターセンター、パートナーと協働した教育・ツーリズムに表れるなど、アクションプランに沿った運営が着実に進められている。ガイド団体等が参加したサイトの管理や、植生調査と連動した保全活動を展開している。今後、事務局体制の強化に力を入れることで、教育・ツーリズム・持続可能な開発等の活動がさらに推進されると期待できる。以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

・日本ジオパーク委員会ホームページ <https://jgc.geopark.jp/>



祝！再認定！



磐梯山ジオパーク
BANDAISAN GEOPARK

磐梯山ジオパークは
15周年を迎えます

認定の歴史

2011年初認定
2015年再認定
2019年条件付き再認定
2021年再認定
2026年再認定

■ 磐梯山ジオパーク新規ジオガイド認定式

2/7に磐梯山ジオパーク新規ジオガイド認定証授与式が学びいなかで開催されました。

認定式は磐梯山ジオパークフォーラムの日に行われ、運営委員長はじめ認定試験に関わられた各ガイド団体の代表者の皆様、講演会講師の皆様に見守られながら執り行われました。

新しいガイドとなられた方々は、自信と希望に満ちた表情で事務局長より認定証書を受け取っていました。

事務局としてもサポート体制を整えていきたいと思っています。



新たに14名のジオガイドが誕生しました
(授与式には11名の方々が出席)

■ 活動報告：（1月半ば～2月半ばにかけて）

● 2/3 猪苗代中学校SDGsホイールバッジ作り

猪苗代中学校のSDGs推進委員会の皆さんと、大和ハウス工業猪苗代ヒルズの皆さんと一緒にSDGsホイールバッジ作りをしました。学生の皆さんと楽しく力を合わせて作製したバッジはカラフルでぬくもりのある仕上がりとなりました。

猪苗代中学校では、毎年新入生に贈るSDGsホイールバッジを間伐材を利用して作製しており、昨年からの材料となる間伐材を大和ハウス工業猪苗代ヒルズの方々が提供しています。

大和ハウス工業猪苗代ヒルズが立地する場所は約5万年前の磐梯山噴火によってできた岩なだれ（岩屑なだれ）堆積地形の上にあります。住民の方々と自然体験を通じた活動などで当協議会と連携協定を結んでおり、当ジオパークも作製時に一緒に活動をするという協働関係を築いています。



● 2/7 第14回磐梯山ジオパークフォーラムin猪苗代町

今年の磐梯山ジオパークフォーラムは多くの団体との連携が際立つ内容となりました。

第一部の講演会では「磐梯山ジオパークの今」というテーマで、再認定現地調査員の群馬県立自然史博物館学芸員の菅原久誠先生にお話しを伺いました。

再認定調査ではどんな事を大事に考え、見ているのか他地域の話を変えながら分かりやすくお話しいただきました。そして、磐梯山ジオパークの良いところもお話しいただき、改めて次の4年間の活動に力を入れていかなければと身を引きしめました。



第二部では極上の会津プロジェクトと連携し、「猪苗代町と日本遺産」という題で福島県立博物館の高橋充副館長と猪苗代地方史研究会顧問の江花俊和氏による対談を行いました。

三十三観音の基本知識や会津三十三観音についてお話しいただいたあと、猪苗代三十三観音について対談が行われました。猪苗代三十三観音に子安観音が多いわけなど、好奇心をくすぐる興味深い内容でした。



お話しのほか4つの体験コーナーも設け、定番の磐梯山ジオラマ作りや巨大サイコロパズルに加え、岩石クイズや噴火泥流実験など新たな体験活動も実施しました。

さらに、猪苗代町・磐梯町・北塩原村の社会福祉協議会が連携した「包装食袋を使った非常食づくり体験」も行いました。どのコーナーも笑顔あふれる、楽しいフォーラムとなりました。

● 2/12 磐梯山ジオパーク ジオガイド研修2026

猪苗代町の学びいなかでジオガイド研修を行いました。講師には福島県内で多くの自然観察会を実施している熟練のネイチャーガイド、横田清美氏をお呼びし、観察のポイントだけでなく参加者との関わり方など、スライドを見ながら優しく教えていただきました。

よく観察しなければ気づかないような、自然の中の発見を沢山の写真を交えながら、実際に一緒に森の中を歩いているような感覚で教えていただきました。



■ お知らせ

● 3/8 裏磐梯ビジターセンター第19回研究発表会

磐梯朝日国立公園やその周辺で研究を実施している学生や一般団体の方による研究発表会が裏磐梯ビジターセンターで開催されます。

磐梯山ジオパークをテーマに研究をしてくださった学生の皆さんも発表してくださいませ！おもしろいテーマばかりなので、ぜひ足を運んでいただければ嬉しいです。

オンラインでの配信も行うそうなので、遠方の方でも、お気軽にお申込みください。

・裏磐梯ビジターセンターホームページ
<https://urabandai-vc.jp/news/54782/>



申込フォーム
QRコード

■ ジオサイト紹介 B裏磐梯湖沼群エリア7：小野川湖 地質・地形サイト



小野川湖は北東から南西方向に細長い形をしており、西吾妻山から流れる中ノ沢や小野川が磐梯山の噴火によりせき止められてできました。長さが約4km、湖岸線は約10kmで、湖尻に無数の岩山を浮かべて絶景をなしています。噴火時の岩なだれが湖の中央部まで及び、湖の西側には流れ山が水面から顔を出しています。小野川集落は水没のため移転を余儀なくされ、水位が下がった時には、湖底に沈んだ墓石が姿を現わします。

■ 用語集

三十三観音

三十三の姿に身を変えて衆生を救うといわれる観音信仰から、平安時代に三十三観音巡りが始まったとされています。本家西国三十三観音の成立以後、坂東三十三観音など全国各地にさまざまな三十三観音がつけられました。

参考：日本遺産ポータルサイト

<https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story021/>



間伐材（かんばつざい）

森林の成長に応じて樹木の一部を伐採し、密集した森林の密度を調整する事を間伐と言い、この作業で出た木材を間伐材と言います。

SDGs（エスディージーズ）ホイールバッジ
 SDGsの17目標を表す色をドーナツ状に並べた『カラーホイール』状のバッジの事です。SDGs（持続可能な開発目標）に取り組んでいる目印や社会課題へ関心を寄せるきっかけとなります。

磐梯山ジオパーク協議会事務局

〒969-2701

福島県耶麻郡北塩原村大字桧原字剣ヶ峯1093
 （裏磐梯合同庁舎内）

TEL/FAX：0241-32-3180

E-メール(代表)：bandaisan.geo@gmail.com

磐梯山ジオパーク協議会は猪苗代町、磐梯町、北塩原村が中心となり26の民間団体と行政機関が運営に携わり活動しています。

「大地と人と自然の物語」という大地とのつながりをテーマに教育・保全・地域振興などにかかわる活動を行っています。